

増税打撃 想定超える

前回増税時 個人消費の動向と 消費税増税対策 今回増税時

5% → 8%	消費税率	8% → 10% (飲食料品などは) 軽減税率 8%
2.0% 【14年1～3月期】	増税前後の個人消費 （前期比増減率、▲はマイナス）	0.5% 【19年7～9月期】
▲4.8% 【14年4～6月期】		▲2.9% 【19年10～12月期】
低所得者への現金給付		キャッシュレス決済のポイント還元
住宅購入者への給付金	主な負担軽減策	プレミアム付き商品券
投資や賃上げの促進税制		幼児教育・保育の無償化

業種別の2020年3月期純損益増減率見通し

全 体	▲6.6	製造業	▲19.4	非製造業	0.6
鐵 鋼	赤字 軒落	鋼材需要の低迷が直撃。日本製鉄は広島県の製鉄所閉鎖、和歌山県の高炉休止を決定			
石 油	▲44.5	米中貿易摩擦を背景とする世界的な景気鈍化で原油価格が下落し、在庫評価損が発生			
電 機	▲19.5	中国景気減速で電子部品や工場自動化システムが低調。半導体関連は需要回復の兆し			
輸 送 器用	▲4.5	世界的な自動車販売低迷が重荷。新型肺炎による部品調達難で工場稼働停止の影響も			
空 運	▲27.8	国際旅客、貨物需要が下振れるとの想定から、日本航空が定期業績予想を下方修正			
陸 運	▲1.9	宅配事業は人件費増加。JR上場各社は鉄道運輸収入が堅調だったが台風被害で損失			
小 売 り	1.0	消費税増税前の駆け込み需要が発生。増税後の反動減や訪日客需要の冷え込みは警戒			
不 動 産	11.6	東京五輪を控えて都心部のビル、商業施設が好調。新型肺炎でホテル事業には不安も			

（財務省幹部）の7・
へは想定外

新型肺炎 追い打ち

誤算だったのは増税後の消費動向だ。19年10～12ヶ月の個人消費は2・9%減と、反動減は予想以上に表れた。家計調査による2人以上世帯の消費支出を見ても3カ月連続で大幅なマイナスが続いている。

△下方修正
景気はなお「緩やかな回復基調」とみる政府は、17日の国会答弁でも「駆け込み需要と反動減は前回ほどではない（参考音三首目）」と話す。常の消費が冷え込んでいる状態。増税が財布全体を圧迫している」と話す。

上場企業が20年・3月期の通期業績予想を引き下げる動きも相次ぐ。SMB C日興証券によると、上場企業の純利益合計は前期比6・6%減に落ち込む見通しで、業種別では鋼材需要の低迷が直撃する鉄鋼が赤字に転落。世界的な景気減速が重荷となつて電機や輸送用機器も減益の公算で、空運や陸運も振るわない。

新型肺炎は工場の稼働停止や消費の鈍化を通じて日本企業の業績を押し下げる。大和証券の阿部健児チーフストラテジストは「今の各社計画は新型肺炎の影響をまだほとんど（織り込んでいない）と指摘。さらなる打撃が明らかになるにつれて「当面は下方修正が続くだろう」と見通した。